

## 9. 防災に関心を持つことはSDGsに貢献すること

SDGsとは、地球と人類が繁栄し続けるために達成するために17の目標を立てて、2015年に国連で採択されました。その中には、「誰一人置き去りにしない」というスローガンの下、2030年までに成し遂げるとしています。ところで、われわれが自然災害に対して、被害や犠牲をなくす方向に努力することは、持続性のある環境形成、維持に関係が深く、17のスローガンのうち14の目標と一致しています。

つまり、防災は自然との付き合い方を知ることであり、自然に対する恩恵を理解することが基本になっています。つまり災害を大きくするのもわれわれの社会の在り方、意識が影響していることとなります。また、防災の目標は環境、社会、経済の3つの価値のバランスでもあり、現代のニーズは将来世代のニーズにこたえるもので未来への共感で無ければなりません。いまがよければよいということでは、SDGsに対する反目になると思われれます。したがって、防災は単なる備えとすることを超えて、少なくとも将来も起きるところの自然現象を悪化させないことが重要なこととなります。自然現象の素因を理解し、誘因になるものは何かを企画して、その誘因の抑制を考えることだと思います。例えば、誘因である気候変動をなくすためにはどうすべき、何をすべきかに関心を持って実践する社会に積極的に参画する必要があります。

まずは、防災という行為が、SDGsの目標と絡むのかを見てみると、防災を進める、理解する、実践のプログラムを持つことが持続可能な環境を考えることであり、健全な自然との共生がなければ、恩恵もないこととなります。自然のサイクルは極めて変化に敏感であり、そこから自然災害が活性化することとなります。

(防災とSDGsのゴールとターゲットのからみ)

### 1 貧困

#### 1.3 自然災害による生活困窮

- ・ 自然災害弱者やリスクの高いところに立地する施設の利用者
- ・ 基礎的な資金不足、高齢などで生活環境の復元力に欠ける
- ・ 社会的に孤立するリスク(避難インフラ、資金、支援体制など)が高い

#### 1.5 異常気象などによる災害の暴露を減らす

- ・ 居住域にかかわる情報を収集して、リスクを特定
- ・ 避難の経路や避難所の評価、確認
- ・ コミュニティへの努力、キーマンを養成
- ・ 最低の備えをする(自分を証明するもの、日常不可欠なもの)
- ・ 周辺の整備(下水の掃除、変化への気づき・・・)

#### 1.b 安定した環境を維持継続する政策を構築する

- ・ 自然災害への関心を高め、他地域での事例を対岸の火事視しない
- ・ 地域のまちづくりに積極的に参加する
- ・ 情報の収集と要望などを話し合う

- ・地域の災害リスクを共有する
- ・流域治水の構想への理解を進める

## **2. 持続可能な農業**

### 2.1 継続した安定な食料の供給

- ・圃場における自然災害の抑制と代替、緩和策
- ・圃場における豪雨災害時の機能維持
- ・水路、ため池等の灌漑、排水機能の確保、保全
- ・従事者の確保と災害への関心度醸成

### 2.2 栄養ニーズへの対応とリスクの低減

- ・生産の維持向上、災害時の影響の低減、災害時のリスク対応
- ・農業環境の健全化、農地の開発抑制、災害に配慮した農村の維持

### 2.3 食糧生産者の生産性の向上

- ・生産基盤を自然災害から守る、後背地への配慮
- ・流域治水への理解、災害時の機能の向上と影響の抑制

### 2.4 生産性の向上、生産量の増加、生態系の維持。自然災害に対する適応能力の向上、安全な生産基盤の確保

- ・排水と保水の機能の健全維持のための機能の整備
- ・後背地を含めた治水、治山ための管理体制の維持
- ・災害時を取り込んだ圃場の整備、再編

## **3. 健康と福祉(防災による)**

### 3.4 予防、治療で精神保健、福祉の促進

- ・災害時の健康管理、復旧作業環境の改善、配慮
- ・下水道の耐震化、設計基準の改定、平常時の維持管理
- ・水源涵養の健全化による、上質な地下水の確保

### 3.9 有害化学物質、大気、水質及び土壌の汚染に影響による削減

- ・自然災害時の潜在化していたものが顕在化
- ・地域知による、顕在化する災害リスクを周知
- ・顕在したときの被害調査と対応を確立
- ・過去の土地利用、後背地の産業立地等（鉱山、産業廃棄域等での崩壊、土砂流出）

### 3.d 危険因子の早期警告、危険因子緩和および危険因子管理のための能力の強化

- ・自然災害に対する要因の抽出、背後地のリスク(土砂の崩壊・流出、異常出水)
- ・健全な環境喪失時の代替策(インフラの確保、避難先、仮設時の配慮、二次被害の防止)
- ・地域知、情報収集して情報の共有を図り、リスクの特定、予測、対応を構想